

DATA：歯科・口腔外科

- 施設認定：日本口腔外科学会認定研修施設、日本口腔診断学会認定医制度研修施設など
- 主な対象疾患：口腔外科全般、オーラルメディスン、特殊な管理を要する方の歯科一般、顎変形症、デンタルインプラント、顎顔面補綴、摂食嚥下機能障害、睡眠時無呼吸症候群



◀診療科 HP

総合病院の歯科・口腔外科として

当院の歯科・口腔外科には、歯科医師が40名、歯科衛生士が11名勤務し、9名の歯科医師は日本口腔外科専門医を取得しています（2021年2月現在）。患者さんをご紹介いただくのは、歯科医院からだけではなく、地域の医科医療機関からご紹介いただくこともあります。

観血的処置はもちろん、顎変形症の治療・手術に対応するとともに、歯科以外の病気を合併して一般の歯科医院では治療が困難な方（心臓病、肝臓病、糖尿病などの基礎疾患がある方）や、睡眠時無呼吸症候群でマウスピースの作製が必要な方、口腔がんの疑いがある方などへの診療も行っています。

また、当院入院患者さんについては、病状に応じて医科・歯科の垣根を超えて連携を図り、全身状態に配慮した口腔顎顔面領域の治療や、チーム医療の一環として摂食嚥下障害の方へのサポートを行っています。

顎変形症とはどのような疾患か

私の専門分野は顎変形症です。当院では顎変形症の手術を年間170件ほど行っています（2019年



健康を脅かす顎変形症に真摯に向き合う



度実績)。顎変形症とは、頭蓋骨に対して上顎と下顎の位置に異常があり、不均衡な状態のことを指し、X線規格写真によって骨の位置関係を測定して診断します。上顎前突、上顎後退、下顎前突、上下顎前突、下顎後退、顎の側方偏位など様々な症状があり、それに伴い、噛み合わせに影響が出ています。

原因として、唇顎口蓋裂や遺伝的な疾患などから生じる先天的なもの、やけどや骨折などの外傷による後天的なものが挙げられます。このほか、思春期の急激な骨の成長により生じるものもありますが、その原因ははっきりとわかっていません。

顎変形症の問題点は多岐にわたり、健康面に多くの影響を与えます。噛み合わせの悪い人は将来的に歯を失う時期が早いという研究結果も出ており、歯を失うと摂食嚥下機能の低下につながり、やがて栄養不足となり、フレイルなどを引き起こしてしまいます。また、顎変形症の方は効果的な補綴治療を行うことが難しいという点も挙げられます。適切な咬合が得られないことで顎関節症のリスクが高くなったり、睡眠時無呼吸症候群の原因になることもあります。

患者さんとの対話を大切に、他科や地域とともに

歯科・口腔外科

顎変形症の治療は長期にわたる

骨格異常のない不正咬合は矯正治療だけで済む場合もありますが、顎変形症の治療は必ず手術を行うこととなります。この治療過程はとても長いため、患者さんと十分に話し合って治療方針を決めます。

まず手術で顎を動かした後の正しい咬合位置を想定し、術前矯正を行います。その後、模型やコンピューターなどで綿密なシミュレーションを行い、術式を決定します。

下顎の場合は下顎枝部分を垂直に切断する方法や矢状分割する方法、上顎では頬骨付近で水平に切断し移動するなどの術式があります。切開は口腔内で行うため、術後、外から傷が見えることはありません。

術後は、咬合の微調整のため1～2年ほど術後矯正が必要であり、また、骨を固定していた金属プレートは術後から1年以上経過後に撤去します。これで治療は終わりますが、その後も2～5年かけて経過観察を行います。

手術を決める前に丁寧な相談を

このように治療には術前矯正から術後観察までを含めた長い期間を要しますが、顎を動かす手術は骨の成長が止まってから行う必要があります。そのため、女性で16歳前後、男性で18歳前後までは、成長を待ちながら経過観察することになります。

手術によって、審美的に望ましい容貌の変化を期待する患者さんも多いのですが、目的は顎を医学的に正しい位置に戻し、個性正常咬合を獲得することであり、必ずしも希望どおりの容貌にならない場合もあることをご理解いただく必要があります。とくに、上顎を動かした場合、鼻の形が変わることがあります。また、下歯槽神経への影響が出ることもありますので、健康上のリスクについても十分に伝えなければなりません。

このように、患者さんと担当医がしっかりと話し合い、より適切と思われる術式を提案していきます。

地域と連携して顎変形症を治療する

地域の先生方で顎変形症を疑う患者さんの紹介先に困られた場合は、いつでも当院へご紹介ください。当院にて診療をさせていただきます。残念ながら当院には矯正歯科はないのですが、矯正が必要な場合は適切な矯正歯科へご紹介させていただき、地域医療連携を図りながら診療をすすめてさせていただきます。

また、東京歯科大学の水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターの3施設合同で、外科的矯正研究会*という勉強会を開催し、常によりよい治療を行えるよう、研鑽を積んでいます。ご興味のある先生方は、ぜひご参加ください。

*外科的矯正研究会へ参加をご希望される先生方は、電話交換手へ「外科的矯正研究会の件」とお伝えいただき、歯科・口腔外科 歯科医師 山本または成田までお問合せください。(TEL: 047-322-0151)

Dr's profile



Masae Yamamoto

山本 雅絵 歯科医師



出身地

千葉市花見川区
(いわゆる新検見川) です

趣味

居合。袴を着けて、模擬刀を振っています。ほかに、旅行、映画鑑賞



スポーツ歴

学生時代はラグビー部のマネージャーをしていました



歯科医師になったきっかけ

東京歯科大学が家から近くてなじみがありました。子どもの頃、歯科治療を受けていたとき、トレーの上に載っていた薬瓶に興味を引かれていました

座右の銘

急がば回れ
(手術中にいつも思うこと)

【掲載写真について】 感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日:午前9時～午後5時 土曜日:午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)